

# 環境まづくり 会報

編集・発行/入間市環境まづくり会議

## 入間市環境まづくり会議

### 第四回 総会開催

5月28日(金)産業文化センターにて、4回目の入間市環境まづくり会議の総会が行われ、5月とは思えないくらい暑い暑さの中、108名の皆さんの参加がありました。

15年度の事業報告からはじまり、16年度収支予算案と原案とあり可決されました。

事業計画案では、会員から、会報だけではなく、ITを活用してホームページ等、日々更新

された情報が欲しいとの発言があり、今後検討することになりました。

昨年度設置された(仮称)ごみ部会も毎月の定例会を行うなど活動も軌道にのり、入間市環境まづくり会議も四年目をむかえ、多くの入間市民の皆さんへ、環境について考えるきっかけを提案できる会を目指していきたいと思っております。

#### 16年度 主な事業計画

- 環境展や生涯学習フェスティバルに参加
- 環境ウォーキングの実施
- 会報の発行
- 交流会や意見交換会の開催
- (仮称)ごみに係る行動の会員部会の活動



◀ 昨年の環境ウォーキング

東金子小学校のピオトープを見学

## 地域における環境診断と環境再生の方向

環境まづくり会議がNPO法人自然環境復元協会と共催した「第一回全国環境再生医シンポジウムin入間」(メイン会場・入間市農村環境改善セン

### 入間市で

### 全国環境再生医シンポジウム

開催

ター)が、5月15、16日の両日開催された。

1日目は、木下博入間市長や柏木正之名栗村長などの講演と地域の市民団体による①奥山再生②里山再生③平地林再生④水辺再生⑤まちの再生についてのワークショップが行われた。2日目は、西川林業地、加治丘陵、三富地域、入間川・霞川、入間市中心市街地の5コースの現地見学と環境診断が行われた。

1日目の講演のなかで、スイス、チューリッヒ工科大学講師の山脇正俊氏は、「IPCC(気象変動に関する政府間パネル)の公式データによると、CO2などの蓄積と地球温暖化傾向が顕著に現れているが、日本ではほとんどの人が、目前に迫っている人類滅亡に対して危機感を

持っていない。危機感が無ければ、それに対処することも不可能だ。」と警鐘。そして、「一人ひとりの意識改革で環境の破壊を止め、人類の破滅を阻止し、私たちの、そして子供たちの未来を残そう」と述べた。



# ごみの33%は水分

「(仮称)ごみ部会」は毎月第3金曜日午後7時に定例ミーティングを行っています。「ごみ」に関して何か活動してみたい方、またアイデアや提案をお持ちの方ぜひご参加ください。いつでもお待ちしております。

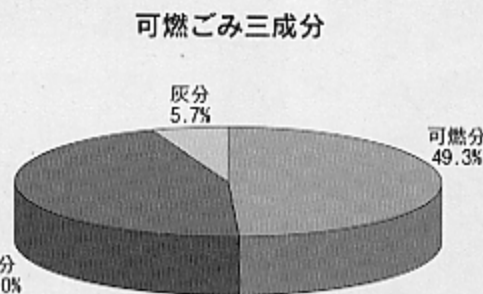


▲入間市クリーンセンターとリサイクルプラザ

入間市のクリーンセンター発表の資料によるとごみ全体の75%が「可燃ごみ」であるといえます。入間市では週3回の「可燃ごみ」収集を行っています。その「可燃ごみ」のうち45%が水分であるというデータが出ています。なんと「ごみ」全体の33%が水分となる計算。入間市民のごみは一人1日946g(クリーンセンター15年度発表の資料より)、そのうち単純計算で1/3の約310gが水分といふこととなります。ゴミ収集車が運搬するごみの1/3が水分であり、焼却炉でその水分を燃すために多くの熱量を必要としています。入間市民1人当たり1年間のゴミ処理は約1万2千円の費用がかかります。入間市全体で年間約17億7千万円(クリーンセンター15年度発表の資料より)。ただ水分を無くすだけで約310gの減量に繋がることになります。しかし、この水分を完全に無くすことができるのでしょうか、現実においてはなかなか難しい問題があります。ごみ減量に関しては今まで様々な取り組みがあります。100g減量や3R運動することとは勿論ですが、水分を一番多く含んでいるのが生ごみです。生ごみの減量に関しては、例えば「生ごみは全て肥料にする」「生ごみは水切りを良くする」「庭の草や木を捨てる時は太陽に当て水分をなくしてから捨

てる」などがあります。「ごみ減量」の決め手はなんであるか、先進諸国ではもう既にゴミを収集していない都市があると聞いています。今の日本ではごみの中から「資源ごみ」を分別するという考え方がありません。しかし、先進諸国ではごみは「全て資源」であり「リユース・リサイクルできないものを取り除く」という考え方があります。

今年発足した「(仮称)ごみ部会」では「ごみ減量」に向けて本格的に取り組みようとしています。



クリーンセンター資料より

## 丸広百貨店で開催

### 入間市環境展

第14回目となる今年の環境展は、六月四日〜六日の三日間。前回までの課題であった集客・

交通の便等を考え、丸広百貨店一階のエントランスホールで行われました。

環境まちづくり会議では、この機会に、より多くの人たちに当会議の存在と活動内容を知ってもらおうことを目的として、出展をしました。

「環境まちづくり会議発足の目的と概要」を始め、「(仮称)ごみに係る行動の会員部会の設立と今後の活動予定」「昨年度の環境ウォーキングの内容」「発行された会報」等の紹介を行いました。また、新会員の募集の為に入会の方法とご案内のパンフレットを用意しました。環境展の開催を知らなかった人が足を止めて声を掛けてくれるなど、交流の場にもなっていました。

(松崎仁子)



入間市環境展



# 啓発の重要性を再認識



啓発用ステッカー

## 啓発担当委員を再結成

ようにする。

◎ 各種環境団体のイベント等に積極的に参加し団体同士で横のつながりを深めていく。

◎ 生涯学習フラスティバル・環境展などで会報を配布する。

◎ 生涯学習フラスティバル・環境展などで会報を配布する。

今後検討を重ねまとめたいと思います。

そして環境の話とはまったく関係のない所で、次のような意見をお聞きしましたので書かせていただきます。

「…入間市、特に宮寺方面、加治丘陵などにはまだ沢山の自然が残っています。ごく普通に暮らしている人達にとって環境問題を考えるには早すぎるほど沢山の自然が残っているのではないのでしょうか？」

総会時にも意見がありましたように、現在の活動状況は環境まちづくり協議委員（以後、委員）にしか詳しくわかっていないのが実情です。入間市のHPでもトップページ↓情報エトセトラ↓環境まちづくり協議会というような状態です。活動自体は年々活発になってきていて少しは知名度も上がってきたように感じますが、私達委員メンバー自体がそう思っているだけなのかもしれません。

まちづくり会議の活動と並行して一人でも多くの入間市民に知ってもらい、できれば活動にも参加してもらうためにはどうしたら良いのでしょうか？

- ◎ 啓発案
- ◎ 広報誌に活動状況・環境ウォーキング等の参加申込みを何度も告知する。
- ◎ 自治会回覧等を利用し会報を市民全員に閲覧できる

▼大森の調節池 多様な生き物の生息地



確かにそうかもしれませんが、これからは先何十年…この子供たち、その子供たちに今の自然を残そうとしたら今からでも遅すぎると思うのです。

未来にこの美しい自然を残すために私達ができる事は何でしょうか？

会員をはじめとす

る一人ひとりが環境伝道師と  
なって簡単な言葉で一人でも多くの人に語り継いでいくことが  
本当の啓発活動ではないでしょうか？

入会時に宣言した「環境にやさしい行動メニュー」を今一度、読み返して活動していけたらと思います。

(児玉任司)

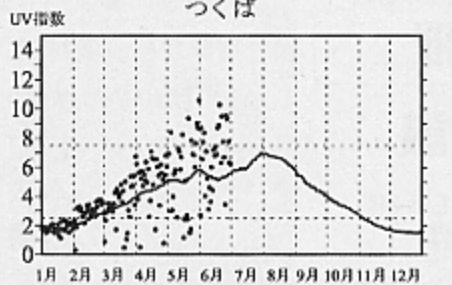
## 身近に自然が残っているから、環境問題は時期尚早ではない。

今や、地球温暖化による気候変動が世界各地で起こっている。もちろん、この日本でも入間市でも。それは、この夏の記録的猛暑、豪雨そしてオゾン層の破壊。この入間市でもオゾン層が減少傾向を示し、人体に影響を及ぼす紫外線が増加している。また、SAR Sや鳥インフルエンザも環境問題（特に地球温暖化と開発）により引き起こされている

という説が有力になっている。いつ、鳥インフルエンザが入間市に起こらないとも限らない。

環境問題は、地域も地球全体も同じレベルで考える必要がある。

紫外線指数  
つくば



※気象庁オゾン層情報センターより

## 情報

ザリガニとろう、

カヌーに乗ろう

## 大森の池まつり

自然がいっぱいの大森調節池で、第5回大森の池まつりが開催されます。

8月22日(日)

午前10時から

午後3時まで

今年、魚やザリガニと、ボートやカヌー乗りなどと、飲食の模擬店出店や音楽会など楽しさ盛りだくさん。子供はもちろん、お父さんも楽しめる催しです。

# 会員の声

## 日々シンプルに

シンプルに暮らすとか、地球にやさしい生活という言葉は非常に耳あたりのよいキャッチフレーズで、誰もがその言葉に反対しませんが、日々の生活の中で、どのようにそれを実践するかが今私たちに問われている課題でしょう。

これまで、主婦のベテランと言われる人の生活スタイルに、少なからずショックをうけたことがいくつもありました。子どもの頃からテレビで様々な洗剤のCMを見ていた私は、家の中の場所によってそれぞれ洗剤を使い分けることが当たり前と思っていました。そんな必要

は無く、石鹸一つで事足りるのです。また、棚や引き出しっぱいにタオルや衣類を持つ必要は無く、数枚で使いまわせば充分なのです。ストッキングは必要以上を持たず、 unnecessaryなものはただでも貰わない。いつか使うかも知れないものは使わないものと割り切り、有効に処分する。こうすれば、家の中はかきすっきりするのではないのでしょうか。

木蓮寺 長澤 智子

## ガキの頃のように

私の家から7〜8分の所に環境ウォーキングのコースにもなった笹井ダムがあります。久しぶりに子供のころよく遊びに行ったそのダムまで歩いてみると、茶畑やその時は誰のもの



▲不老川で魚とり (文章とは関係ありません。)

さとおぼけが出そうでドキドキした薄暗さもありました。ダムの堤防には滝(水門)があり、そこを飛び越えるのに何度も勇氣を奮いやつと成功できた喜びは今でも思い出されます。まだ30年前の話です。

今、皆様達が気づき実行している事が遠い未来確立し、いろいろな意味で調和のとれた街が出来る事を心から願っています。私も今この段階で何が出来るか勉強し実行していきたいと思っています。

宮前町 吉沢 誠十

■会員の皆さんの声を募集しています。



## 編・集・後・記

16年度総会も無事に終わり、四年目をむかえた入間市環境まちづくり会議。環境問題にまったく関心のない人はいないと思います、でもいざ自分が何ができるか...となるという便利さや楽さを優先してしまったりすることは多々ありますよね、そんな方にもやさしく取り組める環境問題を提案していけたらと考えるこのころです。

(二ノ宮)

第3回環境ウォーキングの日程決定  
11月20日(土)開催

## 入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課  
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号  
TEL：04-2964-1111(内線1241,1243)  
FAX：04-2965-0232  
E-mail：kankyo@city.iruma.saitama.jp

## 運営委員が変わりました。

今年から、(仮称)ごみ部会の3名が委員に加わりました。

新役員 大井 貞夫 (入間市連合区長会)  
村山 雄一 (入間市PTA連合会)  
本多 進 ((仮称)ごみ部会)  
川幡 正一 ( / )  
新井 格 ( / )

